



～お知らせ～

今年もあと1月半となりました。年が明ければ令和3年度の入契手続きが佳境に入ります。今年度業務の追い込みと相まっていそがしくなりますがコロナ対策など健康に留意しよろしくお祈いします。



補償コン協会の行事が「コロナ」の影響で延期や中止になっています。「補償業務管理士」の試験等については半年遅れ、支部や県部会が開催する研修や講演会は、前半に予定されていたものはほぼ中止になり、10月以降は感染状況を見ながら規模の縮小など感染予防対策を徹底し実施されるとのことです。それを受け支部の「用地実務者研修会」が10日（火）に新潟、17日（火）に開催されます。例年であれば新潟県部会が5月中旬に朱鷺メッセで開催していた「品質向上研修」で受講できた研修ですがコロナの影響で半年遅れになってしまいました。当社にとっては年度初めに品質確保対策や補償基準、会計実地検査状況など総合技術業務や点検業務を担うにあたり重要な情報を得る研修でしたが現下の情勢では仕方がないですね。いずれにしてもしっかり受講してきて下さい。

「早生まれは不利」負けるな！（新聞から）「1～3月（4月1日を含む）」の早生まれは、何かと不利が多い・・・。幼少期にはよく当てはまる話ですが実は大学進学や賃金の水準、プロスポーツといった幅広い面で「4月2日」以降に生まれた方が有利ななるとの研究結果が出ました。こうした「誕生月格差」は、運命と受け止めるしかないのでしょうか。誕生月格差は幼少期にとどまらず研究では、3月生まれと4月生まれを比べた場合、入学した高校の偏差値は4月生まれの方が4.5ポイントも高くなりこの結果、大学の進学率や大手企業に就職できる割合でも4月生まれが優位になるとのこと。30～34歳の男性の場合、1～3月生まれは4～6月生まれに比べ賃金水準が3.9%も低く、プロ野球選手2,238人の誕生日は「4～6月」が34%、「1～3月」は半分の16%にすぎない。小学生では目立った違いがないものの中学、高校と進むにつれ「1～3月」の割合が減っていく。「心身の成長面が不利となり練習や試合出場の機会が十分に与えられないまま離脱してしまう」と分析されています。反面、曾て（かつて）は「早生まれは得生まれ」とも言われ、早く学校を卒業して社会に出る分、多く稼げるとも言われていました。参考までに管内閣の閣僚（21人）、省庁の事務次官・長官（16人）、経団連会長・副会長（19人）の計56人では、早生まれの「1月～3月」が14人で「4～6月」の13人を上回ったそうです。結局は、生まれ月ではなく「努力を重ねた結果」と結んでいます。ちなみに私は2月生まれ！だから巡りがわるいのか（納得）！



「3つの密を避けましょう！」 ①密室空間 ②密集場所 ③密接場面
「ウィークリースタンスの徹底を」 お願いします。

- ①昼休みや16時以降開始の打合せは行わない
- ②休日明け日（月曜日等）は依頼の期限日としない
- ③休前日（金曜日）は新たな依頼をしない
- ④ノー残業デー（水曜日）は勤務時間外の依頼はしない



[○ホームページに追加事項があれば教えて下さい！](#)

www.hokurikuyouchi.co.jp

○お願い！ 「Aipo」を活用してください。